

## 平成 22 年 10 月 26 日 総務委員会

○**小林委員** 私の方からも「十年後の東京」計画、そしてそれに伴います実行プログラムについて、何点か確認をさせていただきたいというふうに思います。

平成十八年に「十年後の東京」が策定されまして、本年で四年となります。個人であれ、また組織であれ、未来を見据え、そしてまた未来のビジョンを描き、その実現のために今何をなすべきかという取り組みは、大変に重要であります。

「十年後の東京」計画におきまして、石原知事は、二十世紀の負の遺産をこれからの十年間で一気に解消するとともに、東京を、さらなる成熟を遂げた美しいまち、安全が確保された、さらに住み心地のよいまちへと生まれ変わらせることで、新しい歴史として次代に継承してまいりたいと強い決意を述べておりますが、この理念を形とし、東京をさらに高いレベルへ成熟させていくために、「十年後の東京」において三つの取り組みが必要とされております。

初めに、改めて、この三つの取り組みについての考え方についてお伺いをさせていただきます。

○**武市計画調整部長** この「十年後の東京」では、今後十年間で東京をさらなる成熟都市に発展させていくためのねらいといたしまして、三つの取り組みを示しております。こうした取り組みを通じまして、東京が世界諸都市の模範となることを目指しております。

その取り組みの第一といたしましては、東京の最大の弱点であります交通渋滞を、三環状道路の整備などによって克服するとともに、成長の過程で生じた大気汚染やごみの急増など、残された二十世紀の負の遺産を解消するための施策に取り組むということを示してございます。

第二は、より機能的で魅力的な東京の姿を明らかにすることでありまして、渋滞解消によって生まれるゆとりを活用いたしまして、快適で利便性の高い都市生活を実現するとともに、だれもがまちを楽しめるユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくことを掲げております。

第三といたしまして、水辺からの眺望を重視した良好な景観形成を図ることや、東京の喫緊の課題であります震災対策に集中的に取り組むことにより、美しいまち、安全なまちを実現いたしまして、東京の価値や信用力を高め、その貴重なレガシーを次の世代に継承していくということとしております。

○**小林委員** 今ご答弁にもございましたように、東京の負の遺産を解消し、より機能的、魅力的な東京の姿を示し、それを実現して東京の価値を高めていくというこの三つの取り組みが必要であるとの認識のもとで、さらに、この「十年後の東京」計画の全体を貫く三つの視点というものが掲げられております。

この三つの視点は、毎年策定されている実行プログラムにおいて、各局が事業案を作成する場合に、十分にこの三つの視点を踏まえていくことが必要とされていると思いますが、この三つの視点の考え方についてもお伺いをさせていただきます。

○**武市計画調整部長** 「十年後の東京」の全体を貫く考え方として掲げました三つの視点についてでございますが、まず、「十年後の東京」によりまして先進的な取り組みを進めるためには、人類が未来に向かって抱く文明社会の夢を実現する、そのための科学技術を最大限に活用することが必要でありますので、そうしたことから、まず最先端の科学技術力によって未来を切り開くという

ことを一つの視点に据えております。

また、先進的な取り組みを行うためには、多様な人材をさまざまな分野のあらゆる段階で新たなレベルアップを図ることが必要であることから、多種多様な人材の集積地でありますメリットを生かしまして、東京から新たな人材育成システムのあり方を発信する、これを二つ目の視点としております。

さらに東京は、今後世界で最も発展することが見込まれております東アジアの諸都市と経済分野で連携をし、そこから生み出される価値をより大きなものとするとともに、文化、芸術などの国際交流による相互理解を深めまして、アジアの紐帯をより強固なものにすることが求められていることから、東アジア諸都市との連携、連帯を通じてダイナミックな発展を遂げること、これを三つ目の視点としているところでございます。

**○小林委員** この三つの取り組み、そしてまたこの三つの視点というもとの、この「十年後の東京」計画を着実に実行していくために毎年策定されています実行プログラムも、二〇〇八を最初として現行の二〇一〇に至るまで、二度の改定が行われておりますが、今、新たに年内の発表をめどに、先ほどもご答弁にありましたように、二〇一一の策定に着手されているというふうに思います。

そこで、実行プログラム二〇〇八から二〇〇九への改定、また二〇〇九から二〇一〇への改定において、それぞれどのように検証をされ改定がなされてきたのか、確認の意味で、それぞれのポイントについてお伺いをさせていただきます。

**○武市計画調整部長** 実行プログラムでは、「十年後の東京」を確実に実現するためのアクションプランということでございまして、毎年度の改定に当たりましては、施策の進捗状況でございますとか成果を検証するとともに、社会情勢の変化に的確に対応すべく施策を再構築しているところでございます。

まず、実行プログラム二〇〇九の改定に当たりましては、ポイントといたしましては、大地震の続発を契機といたしまして安全・安心に対する危機意識が高まっているといったことから、子どもたちを守る学校の耐震化を強化するとともに、医師不足による外来、分娩の休止問題でございますとか、救急搬送の受け入れ困難事案の発生といったことがございましたことから、東京都独自の即効性ある医師確保対策の開始でございますとか、周産期、救急医療体制の再構築などを盛り込んだところでございます。

また、実行プログラム二〇一〇の改定に当たりましては、本年四月から開始いたしました、大規模事業所を対象とした世界初の都市型キャップ・アンド・トレードがより機能いたしますように、中小事業所のCO2削減量をクレジット化する仕組みを創設するとともに、将来の日本の存立をも脅かしかねない急速に進む少子化を打破するために、福祉、医療、雇用、住宅、教育など政策の垣根を越えた対策を構築いたしまして、質、量ともに充実した少子化施策を集中的に実施することとしております。こうした点が、これまでの実行プログラム改定に当たっての主なポイントでございます。

**○小林委員** 十年というスパンでございますけれども、この十年というスパン、これはある意味長いようで短くもあり、先ほど申し上げました知事の決意を目に見える形として実現していくためには、い

うまでもなく、一年一年の着実な、また堅実な前進を重ねていかなければならないというふうに思います。その意味で、毎年の実行プログラムの改定において、事業の進捗状況を精査し、今、何をどのように取り組んでいかなければならないのかという緻密な検証こそが極めて重要であります。

しかしながら、昨今の社会情勢の変化の目まぐるしさにおいては、この実行プログラムに掲げた事業のあり方や、また今後の施策の方向性について、軌道修正を検討しなければならない状況にも遭遇するかというふうに思います。

都として大きく掲げ、都民に示した「十年後の東京」の姿は、全庁を挙げて断固実現していくとのかたい志を持ち続けていくことは何より大切であるというふうに思いますけれども、さまざまな状況の変化に、迅速にまた柔軟に対応し、実行プログラムに変更を加える必要が生じた場合、実行プログラムを取りまとめる知事本局はどのような役割を果たしていくのか。また、今日までの改定において具体的な事例があれば、あわせてお伺いをさせていただきます。

**○武市計画調整部長** 「十年後の東京」計画を実現するためには、社会経済情勢の変化や都をめぐる新たな課題に対して的確かつ迅速に実行プログラムへ反映させ、施策を展開していくことが重要でございます。そうした場合には、私ども知事本局が各局と連携いたしまして、全庁的な視点に立って調整を行っております。

例えば実行プログラム二〇一〇の策定に当たりまして、ただいま申し上げました少子化対策を例にとりますと、その少子化打開に向け、知事本局としての総合調整機能を最大限発揮いたしまして各局と調整に当たるとともに、新たに局横断的な組織であります少子化打破・緊急対策本部を設置いたしまして、そこでの検討を通じて、子育て家庭を支援する重層的、複合的な新たな施策を構築したところでございます。

**○小林委員** 最後になりますが、実行プログラムの策定に当たりましては、広く都民の意見や、また区市町村からの意見も取り入れているというふうに伺っておりますが、その一つとして、私、大変、大事な取り組みであると感じましたのが、この実行プログラム二〇一〇におきまして、都の若手職員からの提案を施策に取り入れているということでもあります。

若手職員からどのように提案を募集し施策に反映させていったのか、具体的にお伺いをさせていただきます。

**○武市計画調整部長** この実行プログラム二〇一〇では、ただいまお話しいただきました、若手職員が柔軟な発想力と創造力を発揮いたしまして都の施策全般に対して積極的な提案が行えるような機会を設けるとともに、それぞれがみずからの職務にとらわれず、日ごろから都政全般に関して問題意識を持ってほしい、そうしたことを考えて、首都東京の政策形成を担い得る人材へと成長していく、そういうことを目的といたしまして、「十年後の東京」計画におけます施策を加速化させる取り組みなどについての提案を募集したところでございます。

寄せられた百七十二件の提案内容につきまして、それぞれの提案者の若手職員と私どもの意見交換などを通じて、その事業化に向けた課題などを検討し、その結果といたしまして、アニメを活用した外国人観光客誘致策などの二十六件につきまして、実行プログラム二〇一〇に反映するに至ったものでございます。

若手職員の柔軟な発想力、創造力は都庁の貴重な資源でありまして、今後とも積極的にその意

見をくみ上げ、計画策定に限らず、幅広く都政として活用してまいります。

○**小林委員** ありがとうございます。

今ご答弁にもありましたように、若手職員の柔軟な発想力、そしてまた創造力、これは都庁の貴重な資源である。これは本当にそのとおりであるというふうに思います。未来を担う若い世代からの意見をどんどん聞き、そして青年とともに考え前進していくところに、真の新しい東京が創造されていくのではないかというふうに思います。

ある教育者が著作の中で、みずみずしい前進の心とエネルギー、新たな未来図を大胆に描く構想力、たくましく難局を突破していく行動力、こうした青年の活力と知恵を引き出し、伸ばし、育てていくことだ、そこに人類の可能性は行き詰まりなく開かれる、と述べておりました。

今後の実行プログラムの策定に当たっても、さらに若手職員の提案を募集し反映させていく取り組みを、ぜひともお願いしたいというふうに思います。

あわせて、これは要望でございますけれども、都の施策、また事業に関して全庁的な企画調整を行う知事本局でありますので、今後の都政運営に当たって、青年の力で都を活性化し東京を変えていくという視点で、東京に住む青年の意見や声も積極的に都政に取り入れていけるような取り組み、これをぜひともリーダーシップを持って発信していただきたいと思いますということを強く要望いたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございます。